

東北各地の「まちなか」再生を巡る最新の取り組み —2022年度東北支部講演会の開催報告

村上 早紀子 福島大学

日本都市計画学会東北支部では、毎年7月に講演会を実施しており、これまでも都市計画制度や、東日本大震災の復興に向けた取り組みなど様々なテーマで蓄積してきた。本年7月16日は、「地方都市のまちなか再生の取り組み ～中心市街地の再生の展開とこれから～」と題した講演会を開催することとなった。

中心市街地活性化法が制定されて四半世紀、これまで各地で様々な取り組みがなされてきた。現在もまちなかの魅力向上が求められ、官民連携のまちなか再生やエリアプラットフォームの構築など、中心市街地活性化計画から次への展開が求められている。地方都市の求心力の維持、向上にはまちなかの再生は重要なテーマであり、時代変化に対応した取り組みが求められている。そこで本講演会は、東北地方の都市を事例に地方都市のまちなか再生に向けた戦略、計画を学び、まちなか再生の重要性和その課題を共有することを目的に開催された。

講演は「地方都市のまちなか再生の取り組み」を基本テーマに、以下3つの自治体より、様々な取り組みに関する講演をいただいた。また、各講演に対して東北支部の委員よりコメントを行った。

・講演① 新潟市（宮崎博人／新潟市都市政策部政策監）
「都心のまちづくり ～にいがた2km×8区連携による新たな価値の創造～」

コメンテーター 鈴木孝男（新潟食糧農業大学）

新潟駅周辺からまちなかにかけて「都心軸周辺エリア『にいがた2キロ』』といったコンセプトに基づく、新潟駅周辺のリニューアル整備方針や、都心エリアの再開発、古町地区の将来ビジョン、DX支援等、「にいがた2km」における最新の取り組みまでご紹介いただいた。

・講演② 長岡市（西野靖雄／長岡市中心市街地整備室まちなか政策担当課長）

「市民協働によるまちづくり～市役所機能のまちなか回帰と市民力の育み～」

コメンテーター 樋口秀（新潟工科大学）

まちなかの賑わいや回遊性の創出に向けた、市役所機能の分散配置による「まちなか型市役所」や、シティホールプラザ「アオーレ長岡」、市街地再開発事業を取り巻くこれまでの取り組みの他、2023年夏に先行オープン予定の「米百俵プレイス ミライエ長岡」に関しても、「人づくり・学びの場」

「産業づくり・交流の場」「にぎわい」といった三つの役割を持つ地方創生の拠点としてご紹介いただいた。

・講演③ 酒田市（土井 勝／酒田市企画部都市デザイン課課長）

「さかたさんぽ ～中心市街地の拠点整備～」

コメンテーター 高澤由美（山形大学）

酒田市中心市街地では様々な拠点整備がされており、その一つである酒田駅前交流拠点施設「ミライエ」は、酒田駅前の再開発エリア「光の湊」に新たに誕生した、市立中央図書館、観光案内所、広場、市営立体駐車場等を兼ね備えた公共施設である。また、産業振興の拠点施設として「酒田産業会館」が新たに完成するなど、にぎわい創出に向けた取り組みが進められている。



写真 酒田駅前ミライエ（写真提供：酒田市）

その後は、小地沢将之氏（宮城大学）のコーディネーターの下、参加者からの質問も交えながら意見交換会を行った。参加者からは、再開発事業の事業採算性や、その前提となる来街者数や売り上げの想定、中心市街地の支え手やアクティビティ、想定している利用者、都心への居住誘導や公共交通路線沿線への居住誘導の実態、「人を集める」とする場合のターゲット層やその行動に沿った施設計画・ソフト事業上の焦点などに関して質問をいただき、活発な意見交換が交わされた。

まちなかを取り巻く状況は、全国各地で変化しており、東北各地においても様々な展開がみられている。その上で、今回の講演で提供いただいたように、従来の中心市街地活性化施策とは異なる新たな価値の創造や、行政と民間の連携、市民協働による「市民力」の創出といった、注目すべきエッセンスが顕在化している。東北支部としては今後も、こうしたまちなか再生の展開を注視していきたい。